

平成17年度IT経営応援隊 経営者研修会事業・ホームページ用原稿

*当文書の記載要領については「ガイド-06(提出物)」別紙「平成17年度IT経営応援隊 経営者研修会事業・ホームページ用原稿(研修-様式4)記載要領」参照のこと

事業番号	044			
事業区分	経営者研修会			
実施機関名	しまね産業振興財団 [URL http://www.joho-shimane.or.jp] (実施都市名 島根県松江市)			
テーマ名称	ITを経営に活かすための経営者向け研修会			
主催	主催：財団法人 しまね産業振興財団 後援：ちゅうごくIT経営応援隊 共催：NPO法人 経営応援隊さんいん "：中国経済産業局			
原稿作成年月日	平成17年9月12日			
作成者名	〔資格〕 ・ITC	〔氏名〕 上田治城	〔E-mail Address〕 haruki.ueda@nifty.com	〔認定番号〕 0012752001C
事業を支援した ITコーディネータ	〔資格〕 ・ITC ・ITC ・ITC	〔氏名〕 足立修司 秀衡美代次 相田範夫	〔E-mail Address〕 s-adachi@icv.ne.jp hidehira@tpj.co.jp aida@tpj.co.jp	〔認定番号〕 0039552003C 0022022004C 0011342001C

〔キーワード〕

経営改革 経営情報化 戦略的経営 経営改革企画 IT活用 島根県 経営者研修会

〔テーマを取上げた狙い〕

1. IT化に遅れをとる当地方の企業を啓蒙し経営環境変化に対応したIT活用を必要とすること。
2. ITベンダー等から提案されるシステム更改提案は殆どがITCプロセスの下流から提案されることが多く実効果があがっていない。
3. 経営の上流から考えなければITを活用した経営改革に繋がるケースは少ないことを認識し、理解している経営者は圧倒的に少ない。

本研修会に参加することにより上記1～3に“経営者自らが気づき”、自社の経営改革を実践するための入り口とする。

〔テーマに関する現状・背景等〕

1. ちゅうごくIT経営応援隊に参加する(財)しまね産業振興財団及び金融機関の取引先を対象とし、自社の経営改革に意欲を持つ会社を選別して本研修会を開催した。
2. 研修で学んだ内容の実践指導や経営改革を実行するために国や県の助成・補助制度について説明する機会を持った。
3. 本研修会は単なる研修会として実施することなく“経営者の経営改革への気づき”と“ITCを

フォーム作成日：平成17年4月1日

活用した個別コンサルティングに結びつける”ことを基本目的として開催した。

〔事業の概要〕

研修実施日と主要実施項目

- 第1回 8月20日(土) ・オリエンテーション
 ・中小企業の戦略的 IT 活用 (講義)
 ・経営戦略企画 (講義)
 ・経営環境分析と経営戦略立案 (グループ作業と発表)

「主な内容」

ITC 協会のテキストを活用して実施した。SWOT 分析の情報をカードで纏めるための手法として KJ 法について説明を補足した。

- 第2回 8月27日(土) ・経営戦略立案 (グループ作業と発表)
 ・戦略情報化企画 (講義)
 ・情報化成熟度分析 (グループ作業と発表)
 ・経営課題を解決する情報システム (講義)

「主な内容」

モデルケースを事例に経営戦略立案をグループ作業で実施した。発表グループと質問グループにわけて、できるだけ質問が出やすい形で実施した。成熟度分析については成熟度レベルの捕らえ方に若干の差が出た。これ聞きなれない「成熟度」という言葉について理解の深さの差だと感じられる。経営課題を解決する情報システムについては、最近の IT 状況を交えて説明を行った。



「研修会全体を進める：上田 ITC (リーダー)」



「基幹系の説明：秀衡 ITC」

- 第3回 9月3日(土) ・情報化企画の立案 (グループ作業と発表)
 ・調達・導入 (講義)
 ・情報セキュリティと情報リテラシー向上 (講義)
 ・自社の情報化企画書作成 (宿題部分)

「主な内容」

経営改革企画書から情報化企画書への落とし込みの作業をグループで実施した。テキストに付属したテンプレートを活用したので、比較的早くできあがった。午後は調達・導入あるいは社内情報化を推進するために不可欠な従業員の情報リテラシー向上やセキュリティに関する講義を行った。

フォーム作成日：平成 17 年 4 月 1 日

宿題として来週までに自社の経営企画書と情報化企画書の作成があるので、本日の残り時間（1時間程度）を活用し宿題作成の時間として一部質疑を受け付けた。



「発表講評：足立 ITC」



「セキュリティの説明：相田 ITC」

- 第4回 9月10日（土）
- ・各社の経営戦略企画書と情報化企画書の発表会 （宿題発表）
 - ・自社の情報化推進体制と情報リテラシー教育 （講義）
 - ・サンプル情報化企画書の再評価 （グループ討議）
 - ・中小企業における IT を活用した競争力強化と経営革新の実現にむけて （経済産業省中国経済産業局参事官付 上田 斉氏）

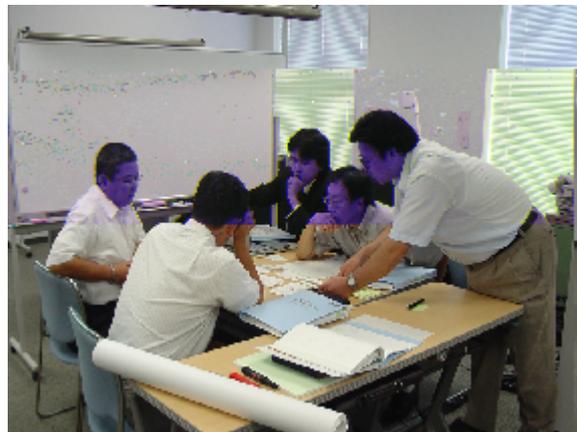
「主な内容」

宿題として作成、持参した自社の経営改革企画書と情報化企画書の各社別発表会を実施した。会社によっては社長から「研修会で学んだ手法や考え方を全て使って宿題を作成せよ」との命令があったとのことで、今回の研修の全ステップにわたって発表した会社もあった。このため、発表時間が予定していた午前中だけでは不足し、午後も発表を実施した。午後に予定していた自社の情報化推進体制と情報リテラシー教育に関する計画作成は個人作業時間が不足したために、リーダーより他社の実例を説明し今後の自社の計画作成する時の参考にしてもらうこととした。

研修の全カリキュラムが終了したところで、中国経済産業局の上田氏から標題の講演があった。これは参加各社とも関心の高い部分であり、経営改革に伴う情報化投資について実例の説明があったことで大いに参考となった。



「中小企業の経営革新と応援策を熱く語る・・・」
中国経済産業局 上田 斉氏



「熱心に行われたグループ討議」

〔 成 果 〕

1. 実現した成果

経営改革における IT 化の必要性は IT 導入のみを考えるのではなく、経営の上流工程から発生する問題という認識と理解ができた。

中小企業に対して国や県が実施している各種の応援策が具体的に説明できた。

グループ討議及び参加メンバーを通じて、他社との様々な情報交換が可能となった。

金融機関がオブザーバー参加したことにより、取引先企業が持つ様々な経営課題の実態が理解できた。

2. 期待される成果

アンケートの回答にも見られたが「次のステップのフォローを希望しますか」という会社が、15社中、12社あった。

主催である（財）しまね産業振興財団と共催の NPO 法人経営応援隊さんいんが中心になり参加企業の支援を今後も継続実施する。

平成17年度・IT活用型経営革新モデル事業に応募した会社の本研修会への参加があった。

引き続き来年度の申請を目指し個別コンサルティングに繋げる予定である。

〔 評 価 〕

1. 事業の成功要因

ちゅうごく IT 経営応援隊に参加するしまね産業振興財団・山陰合同銀行・鳥取銀行・中小企業金融公庫松江支店等に声をかけ、ある程度の参加企業の選別ができたこと。

研修会の進行方法について、実施機関である（財）しまね産業振興財団とインストラクションを担当する NPO 法人経営応援隊さんいんが中心になり綿密な事前打合せを実施した。これによりインストラクター間の連携に漏れや落ちが無かった。仮に漏れがあっても誰かがフォローできた。盆が過ぎて、ある程度世情が落ち着いていた日程が組めた。

参加者を経営改革への取組、気づきの重要性を認識する経営者層に絞った。

参加各社を1名とせず複数名を可能にした。これにより、仕事の都合で1名の欠席があっても他の参加者がフォローできた。

研修会を欠席した会社には、VTRに記録して送ったので研修内容のフォローができた。

2. 事業の課題

連続した週の土曜日を使ったが、自社の都合（イベント・商談会）等により全日程に参加できない企業があった。研修会を記録した VTR でフォローしたが、研修のメインをグループ討議においていたために、若干、理解不足の面が出た企業もある。

開催場所と交通手段の関係で全体の懇親会を実施したかったができなかった。

使用テキストが一部、古いと感じる部分があった。（例、IT化の動向等）

参加企業のうち1社で自社の業務都合が発生し研修の全工程に参加できなかったのは残念である。

3. 評価・感想

参加企業は経営層が多かったせいか、グループ討議にも慣れていない面がありスムーズに進んだ。

当地方（島根県・鳥取県）に本店を持つ地銀2行のオブザーバー参加があり、宿題として発表さ

フォーム作成日：平成17年4月1日

れた経営企画書あるいは情報化企画書の発表の後コメントをお願いした。参加企業の殆どが取引先という関係もあり、会社の実態や今後を考えている方向がある程度見えたことは今後の取引推進の上で参考になると思う。

研修会の最終カリキュラムとして経済産業省中国経済産業局参事官（電子情報産業担当）付の上田（かみだ）氏に中小企業へのIT支援策の講話をお願いしたが、これは当初の予定にはなかった。島根県・松江市は中国経済産業局のある広島市からは若干の物理的距離がある。中国経済産業局の担当者から直接の情報提供を受けたことで、この研修会がちゅうごくIT経営応援隊事業の一環として実施されている、という位置づけが参加者に明確となった。

参加企業の評価である満足度を見てもレベルの高い研修会が実施できた。

オブザーバー参加した金融機関からは

- a. レベルの高い研修会と感じた
- b. 金融機関のビジネスとしてリレーショナルバンキングシップとの関連を考えることができる
- c. 参加企業は助成金についても関心があった。これはどの企業でも関心を持つことだろう。学んだことを自行の取引先に対して情報提供ができる

等の感想があった。